

やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」(青森)発行

誌 名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	28 / 2010 / 5-20
タイトル	妙見「大星神社」の植物(4)
	【囲み記事】季節はずれのヘビイチゴ
著 者 名	石郷岡總一郎

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

妙見「大星神社」の植物(4)

第25代 石郷岡 總一郎

はじめに

青森市妙見にある大星神社境内の植物シリーズも今回で4回目になりました。これからも観察は続けますが、約5年間のデータが揃ってきましたので、中間のまとめを行いたいと思います。

観察が行える時間は限られていて、相変わらず出勤途中の平均20分程度ですので、一回で廻れるエリアは限定的です。その中で、比較的多く観察されている地域は、「はまなす会館駐車場周辺部(図1左下、三角のグレーの部分)」、「問



【図1】大星神社境内略図（再掲）
(濃緑:針葉樹、黄緑:落葉樹、淡緑:草地)

屋町の道路終点付近から妙見市民館とドーナツ池(仮称)の間の部分」、および「卸センター駐車場(距離目盛りの北側部分)」の三カ所になります。時間が取れる場合は、「神社の参道(ドーナツ池の北側～東側)」や「社殿の南～西側の針葉樹下」にも足を踏み入れます。ただ、「社殿北西部の針葉樹下」は殆ど行ったことが有りません。また、「ドーナツ池の東～南側地域」は、ここ2～3年の間に徐々にクズやススキなどの背の高い草に覆われることが多くなり、大抵は藪こぎが出来る服装をしていないため、立ち入ることが少なくなりました。(以前は比較的背の低い草が多い草原でした。)

継続して観察していますと、毎年何種かの新たな出会いが有ります。現在、確認できた植物の数は約160種弱(表1参照)になりました。目立った花を持つ草本植物の写真撮影を中心にしてきましたので、欠けている分野が有ります。表1掲載分の他に、木本類、シダ植物、イネ科、カヤツリグサ科など合わせて十種程度の同定未了の植物写真が有りますので、もう少し丹念に探していくと、植物の総数は200種近くになるのではないかと想定しています。

大星神社境内の概観

大星神社境内の概観を写真で紹介します。写真1～9までが2010年8月20日に撮影したもので、写真10以降は同年6月5日撮影です。これらの写真では分かりませんが、広葉樹の葉が開く前や落葉後は荒川を挟んだ対岸の県道を走る車が見えます。

さして広くない境内ですが、植物の生え具合から見て、「問屋町と神社境内の境界線部分」、「社殿を囲む木立部分」、「参道に沿った部分」、「ドーナツ池(仮称)部分」、「参道南側の広場東側(ドーナツ池より東側)」、「広場中央部(ドーナツ池の南側)」、「広場西側(妙見市民館の南側)」の7つのエリアに分けられる様です。それらに共通する植物も多く有りますが、それぞれの場所で少しずつ異なった植物の棲み分けも見られます。

毎年夏に行われる大星神社大祭の前に、参道や広場の一部で草刈りが行われます。また、問屋町との境界部分は不定期に草刈りや除草剤散布が行われます。そのため、そこに生える植物には影響

が大きいようで、年による変動が見られます。特に、草刈りが行われる頃に花芽・開花している植物は翌年以降数が減少している事例もありました。逆にそれまで気づかなかった植物が目につくようになった事もありました。



[写真1] 境内の東端近く。はまなす会館の北側。この駐車場と木立の間は帰化植物が多い。正面の大きな木はハリエンジュで、フジが絡まっている。



[写真2] 問屋町駐車場。写真1と写真3の中間部分。こちら側の境界部では、在来種が比較的多く見られる。



[写真3] 問屋町から続く道路の北端。左側のイチョウの下でしかアメリカオニアザミを確認出来ていない。



[写真4] 道路北端より妙見市民館方面。問屋町側から大星神社への道路がついているため、草刈りの頻度は高い。右手（東側）手前はクズに覆われている。（写真10参照）



[写真5] 仮称ドーナツ池。左手に見える背の高い草は、ミクリ。以前は橋の右手にも生えていた。水面はアオウキクサ・ウキクサに覆われている。降水が少ない年は、夏過ぎに水が無くなることもある。



[写真6] 社殿から南西側の木立を望む。写真1・2の北側方向にあたる。手間部分は、草刈りが入っている。ここは、2〜3年前にオオウバユリが多数生えていた。



[写真7] 写真6近くの木立内の様子。木立の向こう側は写真1の辺り。ホウチャクソウやクルマバナなどが見られる。



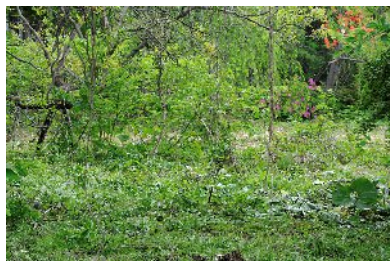
[写真8] 妙見市民館正面付近より東側の参道を望む。正面の木は、著名な「妙見のしだれ桜」。鳥居としだれ桜の間にオオチドメが生えている。



[写真9] 図1の参道東端（右側）付近より、南方を撮影。広場のこちらにはススキが多く、クズは少ない。手前の参道脇は、季節によってウマノアシガタ・ミゾソバなどが多く咲く。



[写真10] 問屋町から社殿方面に向かう道。正面の建物は妙見市民館。手前にウマノアシガタが見える。（6月の状況）



[写真11] ドーナツ池（仮称）の南側。この頃までは、ブッシュ状態にならないため、広場部分の観察が行いやすい。（6月の状況）



[写真12] この頃（6月）からクズが生えだす。7月頃に一度地上部は刈られたが、クズの旺盛な成長でまた一面が覆われるようになった。（写真4、8月20日を参照）

大星神社境内に生育する植物リスト

同定にほぼ間違いがないと思われる植物のリストを掲載します。リストの確認期間は、概ね2005年春から2010年秋までです。この中には、毎年見られるものの他に、期間を通じて一度のみしか確認できなかった植物も含まれます。

大星神社境内で見られた花期も載せていますが、年により変動が有ります。早い場合と遅い場合を比べると2週間程度の差が有るようです。そのため、表では大まかな季節（表末参照）として表示しました。また、ミズヒキなど一部の植物は「実」の状態のものも含まれます。花をつけている個体数は、花期の前半に多いようです。なお、短期間しか花を咲かせない植物も有り、表示した期間中のいつでも見られるわけでは有りません。

[表1] 大星神社境内の植物リスト（2005年～2010年11月）

番号	科 名	種 名	花期等	備 考
1	トクサ科	スギナ	早春	花期はツクシが見られる期間
2	オシダ科	コウヤワラビ	春～秋(葉)	
3	イチョウ科	イチョウ	春～秋(葉)	植栽
4	マツ科	ドイツトウヒ	通年(葉)	植栽
5	スギ科	スギ	早春	植栽
6	クルミ科	オニグルミ	春	
7	ブナ科	クリ	春	植栽
8	クワ科	カナムグラ	秋	
9	クワ科	ヤマグワ	春	
10	イラクサ科	アカソ	夏	
11	イラクサ科	ムカゴイラクサ	晩夏	
12	タデ科	ミズヒキ	初秋	白花と赤花が混在
13	タデ科	イヌタデ	秋	ハナタデよりも少ないようだ
14	タデ科	ハナタデ	秋	
15	タデ科	ミゾソバ	秋	個体数減少傾向
16	タデ科	オオイタドリ	晩夏	
17	タデ科	エゾノギシギシ	夏	
18	ヤマゴボウ科	ヤマゴボウ	夏	2～3株のみ確認
19	ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ	夏～秋	
20	スベリヒユ科	スベリヒユ	夏	
21	ナデシコ科	オランダミミナグサ	春	
22	ナデシコ科	ウシハコベ	春	数は少ない
23	ナデシコ科	コハコベ	春～初夏	
24	ナデシコ科	ミドリハコベ	春	数は少ない
25	アカザ科	シロザ	初秋	
26	ヒユ科	イノコヅチ	夏～初秋	(ヒカゲイノコヅチ)
27	ヒユ科	ヒナタイノコヅチ	晩夏～初秋	
28	モクレン科	キタコブシ	春	
29	キンポウゲ科	キクザキイチゲ	早春	定着している場所から植栽の可能性あり

番号	科 名	種 名	花期等	備 考
30	キンボウゲ科	ウマノアシガタ	春	グダリ沼産より大型で、オオウマノアシガタか？
31	ドクダミ科	ドクダミ	夏	
32	ツバキ科	つばき	春	植栽(品種不明)
33	オトギリソウ科	オトギリソウ	夏	2010 年初見
34	ケシ科	クサノオウ	初夏～夏	数は多く、目立つ
35	ケシ科	ムラサキケマン	初夏	
36	アブラナ科	ナズナ	春	
37	アブラナ科	コンロンソウ	晩春～初夏	
38	アブラナ科	ミチタネツケバナ	春	
39	アブラナ科	イヌガラシ	晩春～夏	
40	ユキノシタ科	アジサイ	夏	植栽
41	バラ科	キンミズヒキ	夏	
42	バラ科	しだれ桜	春	植栽
43	バラ科	ソメイヨシノ	春	植栽
44	バラ科	ヘビイチゴ	晩春～初夏	
45	バラ科	ダイコンソウ	夏	
46	バラ科	ヒメヘビイチゴ	夏	
47	バラ科	ノイバラ	夏	2010年未確認(草刈りされた?)
48	バラ科	ナワシロイチゴ	夏	2～3年に一回の割合で確認
49	マメ科	メドハギ	初秋	
50	マメ科	クズ	晩夏～初秋	近年大幅な増加が見られる
51	マメ科	ハリエンジュ	初夏	
52	マメ科	シロツメクサ	春～晩秋	
53	マメ科	クサフジ	夏	一度のみ確認
54	マメ科	フジ	晩春～初夏	
55	カタバミ科	カタバミ	夏～初秋	
56	フウロソウ科	ゲンノショウコ	晩夏～秋	
57	トウダイグサ科	エノキグサ	晩夏～初秋	2010年は多数確認
58	トウダイグサ科	コニシキソウ	夏	
59	カエデ科	イロハモミジ	春	植栽(同定不確実)
60	ツリフネソウ科	キツリフネ	夏～初秋	群落の移動が見られる
61	モチノキ科	イヌツゲ	夏	
62	ニシキギ科	マユミ	初夏	
63	ブドウ科	ノブドウ	夏～初秋	
64	アオイ科	ゼニバアオイ	夏	2010年初見
65	スミレ科	オオタチツボスミレ	早春	やや減少傾向
66	スミレ科	ツボスミレ	春	
67	ウリ科	キカラスウリ	夏	見かける場所は毎年異なる
68	アカバナ科	ミズタマソウ	夏～初秋	
69	アカバナ科	アカバナ	夏	2010年1株のみ
70	アカバナ科	メマツヨイグサ	夏～秋	
71	ミズキ科	アオキsp	春	栽培種?(斑入り葉の個体もあり)

番号	科 名	種 名	花期等	備 考
72	セリ科	シャク	春～初夏	大きな群落を作る
73	セリ科	ミツバ	夏	2010年初見、野生?
74	セリ科	オオチドメ	夏	
75	セリ科	ヤブニンジン	晩春	1回のみ確認
76	ツツジ科	ツツジ sp	晩春～初夏	植栽(品種など不明)
77	サクラソウ科	コナスビ	夏	
78	アカネ科	クルマバソウ	晩春～初夏	数は多い
79	アカネ科	ヘクソカズラ	夏～初秋	
80	アカネ科	アカネ	秋	
81	ヒルガオ科	ヒルガオ	夏	2010年は未見
82	ムラサキ科	ハナイバナ	春～秋	2010年10月初見
83	ムラサキ科	ノハラムラサキ	春～夏	
84	ムラサキ科	ヒレハリソウ	夏	植栽と思われる
85	シソ科	キランソウ	春	
86	シソ科	ヤマクルマバナ	夏	
87	シソ科	カキドオシ	春～初夏	数は多い
88	シソ科	ヒメオドリコソウ	春～初夏	場所によっては一面を覆い尽くす
89	シソ科	イヌゴマ	夏	
90	シソ科	ニガクサ	夏	
91	ゴマノハグサ科	トキワハゼ	夏	個体数減少傾向
92	ゴマノハグサ科	タチイヌノフグリ	春～夏	
93	オオバコ科	オオバコ	初夏～初秋	
94	オオバコ科	ヘラオオバコ	初夏～夏	オオバコに比べ、少ない
95	スイカズラ科	ニワトコ	春	
96	キク科	ノブキ	初秋	
97	キク科	ブタクサ	晩夏～初秋	
98	キク科	ヨモギ	秋	
99	キク科	ノコンギク	晩夏～秋	花が白っぽい個体が多い
100	キク科	アメリカセンダングサ	秋	
101	キク科	アオモリアザミ	晩夏～秋	
102	キク科	アメリカオニアザミ	夏	1～2株のみ毎年同じ位置に生える
103	キク科	ヒメムカシヨモギ	夏～初秋	
104	キク科	ハルジオン	晩春～夏	
105	キク科	ヨツバヒヨドリ	夏～秋	
106	キク科	ブタナ	初夏～初秋	個体数は少ない
107	キク科	アキノノゲシ	晩夏～初秋	2008～9年は未見
108	キク科	トゲチシャ	夏	2010年初見
109	キク科	コオニタビラコ	春～夏	
110	キク科	アキタブキ	早春	大星神社境内では最初に花をつける
111	キク科	アラゲハンゴンソウ	夏	一カ所に数株のみ(植栽?)
112	キク科	ノボロギク	春～夏	
113	キク科	ハンゴンソウ	晩夏	

番号	科 名	種 名	花期等	備 考
114	キク科	メナモミ	秋	
115	キク科	オオアキノキリンソウ	秋	
116	キク科	オニノゲシ	初夏～秋	ノゲシに比べ個体数は少ない
117	キク科	ノゲシ	初夏～晩夏	
118	キク科	ヒメジョオン	夏	
119	キク科	セイヨウタンポポ	早春～夏	5月中旬以降は少ないが秋の遅くまで咲く
120	キク科	オニタビラコ	夏	
121	ユリ科	アサツキ	初夏	植栽か？
122	ユリ科	オオウバユリ	夏	2010年は未見（春先に葉のみ見る）
123	ユリ科	ホウチャクソウ	春	
124	ユリ科	キバナノアマナ	早春	
125	ユリ科	ヤブカンゾウ	夏	個体数減少傾向
126	ユリ科	タチギボウシ	夏	植栽？
127	ユリ科	マイヅルソウ	春	個体数は多い
128	ユリ科	シオデ	夏	
129	ヒガンバナ科	すいせん類	春	栽培逸脱か？複数品種を含む
130	ヤマノイモ科	オニドコロ	晩夏～初秋	
131	アヤメ科	アヤメ	夏	植栽？
132	アヤメ科	キショウブ	夏	植栽？
133	イグサ科	イグサ	夏	同定に若干不安有り
134	ツユクサ科	ツユクサ	夏～初秋	個体数は減少傾向
135	イネ科	ハルガヤ	晩春	
136	イネ科	カモガヤ	初夏～夏	
137	イネ科	アキメヒシバ	夏～秋	
138	イネ科	イヌビエ	夏	
139	イネ科	カゼクサ	秋	
140	イネ科	ススキ	初秋～秋	個体数が非常に増えつつある
141	イネ科	ケチヂミザサ	晩夏～初秋	
142	イネ科	ヌカキビ	秋	
143	イネ科	スズメノヒエ	晩夏～初秋	
144	イネ科	チカラシバ	秋	
145	イネ科	ヨシ	秋	参道南側の溝に沿って少数
146	イネ科	スズメノカタビラ	春～夏	
147	イネ科	アキノエノコログサ	初秋～秋	
148	イネ科	エノコログサ	夏	
149	イネ科	キンエノコロ	晩夏～秋	
150	イネ科	クマイザサ	通年（葉）	面積が広がる兆候は見られない
151	ウキクサ科	アオウキクサ	春～秋（葉）	2010年は水面を覆い尽くす
152	ウキクサ科	ウキクサ	春～秋（葉）	アオウキクサより数は少ない
153	ミクリ科	ミクリ	夏	2009年花は未見、2010年少数復活
154	ガマ科	ガマ	初秋	2005年のみ確認
155	カヤツリグサ科	アオスゲ	晩春～初夏	同定に若干不安有り

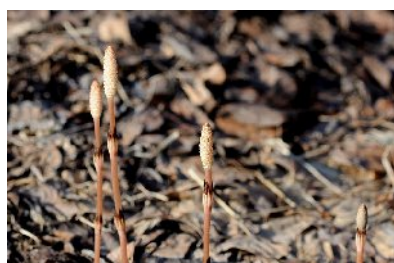
番号	科 名	種 名	花期等	備 考
156	カヤツリグサ科	カヤツリグサ	晩夏～初秋	同定に若干不安有り

【花期(季節)の区分】

早春： 概ね3月下旬～4月下旬。(雪解け～広葉樹の葉が開きはじめる頃)
 春： 概ね4月～5月頃。
 晩春： 概ね5月中下旬頃。(花期の終わりの際に使用)
 初夏： 概ね5月下旬～6月上中旬頃。(5月下旬に花期が始まる場合を含む)
 夏： 概ね6月下旬～8月上旬頃。
 晩夏： 概ね8月中下旬頃。
 初秋： 概ね8月下旬～9月上中旬頃。
 秋： 概ね9月～10月中旬頃。
 晩秋： 概ね10月下旬以降。(広葉樹の落葉が始まる頃以降)

大星神社境内に生育する植物写真

大星神社での植物観察は、主に写真撮影で行っています。前記のリストに掲載した植物の大半が写真データで有りますが、ここでは主な植物のみを紹介します。写真についている番号は、表1の番号です。なお、以前の紹介と重複しているものも有ります。



1:スギナ



2:コウヤワラビ



6:オニグルミ(雄花)



8:カナムグラ



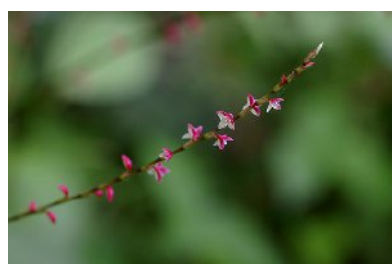
9:ヤマグワ



10:アカソ



11:ムカゴイラクサ



12:ミズヒキ



13:イヌタデ



14:ハナタデ



15:ミゾソバ



16:オオイタドリ



17: エゾノギシギシ



18: ヤマゴボウ



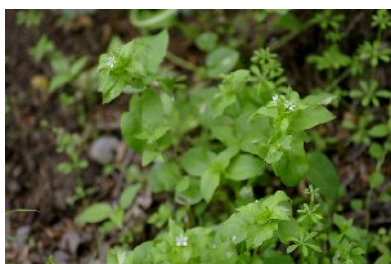
19: ヨウシュヤマゴボウ



20: スベリヒユ



21: オランダミミナグサ



22: ウシハコベ



23: コハコベ



25: シロザ



26: イノコヅチ



27: ヒナタイノコヅチ



28: キタコブシ



29: キクザキイチゲ



30: ウマノアシガタ



31: ドクダミ



32: つばき (品種不明)



33: オトギリソウ



34: クサノオウ



35: ムラサキケマン



36:ナズナ



37:コンロンソウ



38:ミチタネツケバナ



39:イヌガラシ



40:アジサイ



41:キンミズヒキ



42:しだれ桜



43:ソメイヨシノ



44:ヘビイチゴ



45:ダイコンソウ



46:ヒメヘビイチゴ



47:ノイバラ



48:ナワシロイチゴ



50:クズ



51:ハリエンジュ



52:シロツメクサ



53:クサフジ



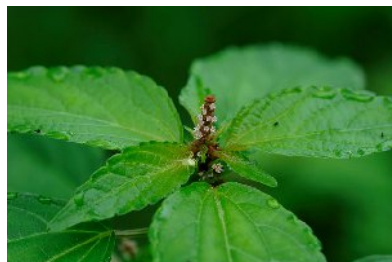
54:フジ



55:カタバミ



56:ゲンノショウコ



57:エノキグサ



58:コニシキソウ



60:キツリフネ



61:イヌツゲ



62:マユミ



63:ノブドウ



64:ゼニバアオイ



65:オオタチツボスミレ



66:ツボスミレ



67:キカラスウリ



68:ミズタマソウ



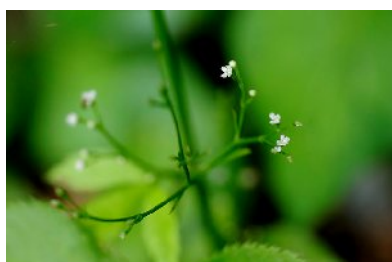
70:メマツヨイグサ



71:アオキ sp



72:シャク



73:ミツバ



74:オオチドメ



77: コナスビ



78: クルマバソウ



79: ヘクソカズラ



80: アカネ



81: ヒルガオ



82: ハナイバナ



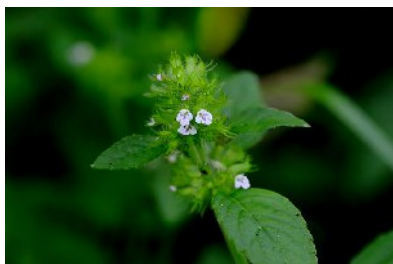
83: ノハラムラサキ



84: ヒレハリソウ



85: キランソウ



86: ヤマクルマバナ



87: カキドオシ



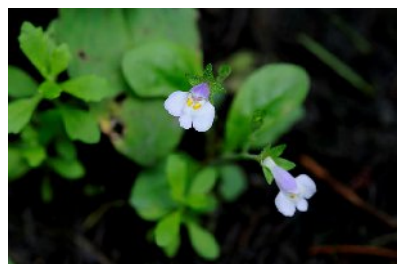
88: ヒメオドリコソウ



89: イヌゴマ



90: ニガクサ



91: トキワハゼ



92: タチイヌノフグリ



93: オオバコ



94: ヘラオオバコ



95:ニワトコ



96:ノブキ



97:ブタクサ



99:ノコンギク



100:アメリカセンダングサ



101:アオモリアザミ



102:アメリカオニアザミ



103:ヒメムカシヨモギ



104:ハルジオン



105:ヨツバヒヨドリ



106:ブタナ



107:アキノゲシ



108:トゲチシャ



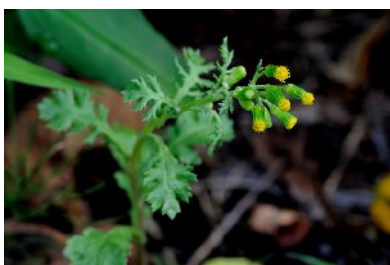
109:コオニタビラコ



110:アキタブキ



111:アラゲハンゴンソウ



112:ノボロギク



114:メナモミ



115:オオアキノキリンソウ



116:オニノゲシ



117:ノゲシ



118:ヒメジョオン



119:セイヨウタンポポ



120:オニタビラコ



122:オオウバユリ



123:ホウチャクソウ



124:キバナノアマナ



125:ヤブカンゾウ



126:タチギボウシ



127:マイヅルソウ



128:シオデ



129:すいせん (他に八重咲きなど)



131:アヤメ



132:キシウブ



133:イグサ



135:ツクサ



136:カモガヤ



137:アキメヒシバ



138:イヌビエ



139:カゼクサ



140:ススキ



141:ケチヂミザサ



142:ヌカキビ



143:スズメノヒエ



144:チカラシバ



145:ヨシ



146:スズメノカタビラ



147:アキノエノコログサ



149:キンエノコロ



150:クマイザサ



151-152:アオウキクサ・ウキクサ



153:ミクリ



155:アオスゲ



156:カヤツリグサ

大星神社境内で見かけた鳥など

大星神社を訪れる時間帯は、午前6時半頃から7時頃までが殆どです。この時間帯は、鳥の活動が活発なようで、鳴き声を良く耳にします。鳴き声だけで分かる鳥の種類は少ないのですが、見かけたり声を聞いて分かった鳥を羅列しておきます。

ハシボソガラス、トビ、スズメ、ハクセキレイ・セグロセキレイ、キジバト、カルガモ(殆ど2羽で行動していました。以前から大星神社近くの荒川で見かけていましたので、近くで営巣しているのではないかと推定しています。)、オシドリ、キビタキ、サギの一種(種名は分かりませんが、飛翔時の首の形でサギ類と判断しました。)、ムクドリ、カッコウ(毎年5月頃から鳴き始めます。)

この他に、大星神社の南側に当たる問屋町内で、オオハクチョウやウミネコの飛翔が良く見られますが、神社境内の近くでは見かけたことがありません。なお、問屋町内ですが、電線に止まったカラスがクルミの実を道路に落として、割ろうとしていた行動を二度ほど見かけています。

昆虫やその他の動物は殆ど調べていない状態ですが、アカネトンボの類・シロチョウの類・ジョロウグモなどはよく見かけています。また、春先にカエルの声を聞いたことがあります。



[写真10] カッコウ(2010. 6. 27)

中間的なまとめと感想

こうしてあらためて大星神社境内の植物をまとめてみると、いろいろな感想が出てきます。

まず、年による変動が大きいと感じています。以前大星神社境内に宮司が住んでいた頃に比べ、いわゆる境内の管理が行き届かなくなっているのはありますが、年に何回か除草作業が行われています。その作業が行われる範囲と時期によって、それ以降の環境・植生などに変化が生じているようです。大星神社大祭前の7月上旬頃には必ず草刈りが入りますが、刈る範囲は年によって少しずつ異なっているようです。7~8月にかけて咲く花の撮影予定が実行出来なかった事もしばしばありました。

草刈りの影響よりも年変動が大きいのは、ドーナツ池の水量です。古い時代は分かりませんが、水源は、現在は雪解け水と雨水のみになっているようです。降水量が少ない年は、8月頃には水がなくなりました。2010年は7~8月に雨が多かったので、水の量は比較的豊富で11月になっても水が残っていました。また、ここで2009年はミクリの花を確認できませんでしたが、2010年は数を減らしながらも復活していました。以前は、大星神社境内と問屋町の境界に水が流れていたと思われます。この部分は、問屋町側から見て50cm~1m程度の深さの溝になっています。大星神社へ通い始めた頃(2005年頃)にはこの溝にガマが生えていました。その頃は、溝の底は湿地状になっていましたが、現在は乾燥しています。ガマはそれ以降確認できていません。

数年間の観察で、植物の消長の印象が大きかったものを紹介します。キツリフネとオオウバユリです。2006年、妙見市民館の南側の広い地域がキツリフネの大群落に覆われました。翌年から数が減り始め、草刈りの影響も有りますが、現在はその場所では少数が残るだけです。2010年は、少し南にずれた問屋町駐車場側の溝に沿って比較的多数が花をつけ、群落が20~30mほど移動した様になりました。オオウバユリは、2006年に数株ほど花をつけていて気がつきました。それまで生育していた

のか、あるいは何処からか侵入してきたのかは不明です。その翌年は、広い範囲に広がり多数が花をつけていました。2010年は若い葉を確認していますが、草刈りの影響か花をつけるまでに成長した個体を探し出せませんでした。

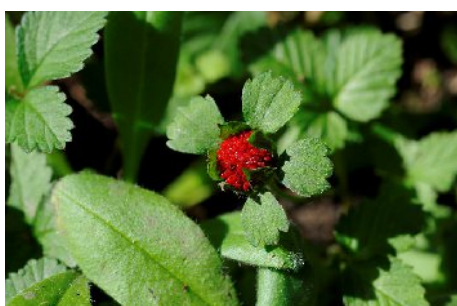
大星神社周辺では帰化植物も多く見られます。これらの多くは、問屋町と大星神社の境界線に沿った場所で見られます。種類によっては、境内で殆ど見かけないものも有ります。一方、境内の緑地内では在来種系の植物と植栽由来と思われる植物が混在しています。植栽由来と思われる植物は、毎年ほぼ同じ場所に同数程度生え、分布を広げる兆候は無いようですが、在来種系や帰化植物系の植物は年ごとによる消長を大きく感じています。帰化植物に関して、境内から直線距離で1km以内に、セイタカアワダチソウ(ソフトアカデミーあおもり隣接地)やオオハンゴンソウ(県道27号線沿い:荒川を挟んで北側)のまとまった群落が見られますが、大星神社境内への侵入は今のところ見られません。

大星神社境内に生育する植物は、青森市周辺の里山で見られる植物と共通点が高そうです。古くから、人手が入りつつも神社境内とし保護されてきた環境なので、在来種も比較的残っているのではないかと考えます。

問屋町が出来て四十余年になり、特に近年は周辺地区は都市化が進んできました。それ以前は、水田が周辺に広がり、現地南方の横内地区の山林地帯と間接的にでも繋がった環境だったと思います。現在は孤島状に残された状態ですが、これからもこの環境が残されていくことを祈ります。

【追記】「木本」に関しましては、殆ど調べていません。本文執筆後に、通常の観察範囲以外にエゾエノキの大木が有るとの情報を教えてもらいました。「木」については来年以降の課題としています。

季節はずれのヘビイチゴ



2010年10月23日、大星神社境内を散策した。アオモリアザミやノコンギクなどごく少数の植物が花をつけていただけだった。今期花シーズンもほぼ終わりかけていた。

大星神社社殿の周りの草地に行くと、赤い実が目に入った。近づいてみるとそれはヘビイチゴの実であった。周りを観察すると花弁は欠落していたが、花も咲いていた。図鑑などによるとヘビイチゴの花期は4～6月頃で、結実期は5～7月頃とある。季節的に半年近くずれている。「実」は3個、花をつけていた株は数株ほど有った。

今年は猛暑の関係か、植物のライフサイクルのズレが感じられる。先日も「街路樹のヤマボウシに季節はずれの花が咲き、実と花が一緒に見られた」という記事が新聞に載っていた。大星神社で観察した花期ズレの記録として記しておく。

(25代 石郷岡總一郎)